

ロータリー財団奨学生報告書

2025年5・6月版

サセックス大学 持続可能な開発修士課程 名村 穰司

重点分野：地域社会の経済発展

スポンサークラブ：東京調布むらさきロータリークラブ

ホストクラブ：Midhurst & Petworth Rotary Club

1. 最初に

イギリスは近頃気温が上がり、本格的にイギリスの夏を感じれようになってきました。気温はおおよそ20－28度ほどで過ごしやすい夏だと感じております。ブライトン海沿いの街なので、夏になると観光客が多くなってきて街が一年で最も賑わっております。日照時間が長いので、生活習慣を整えるのが難しくどうしても夜型になってしまっています。いち早くこの日照時間に慣れて、朝方にするように努力をし修士論文に向けて生産性を高めていこうと考えております。

2. 履修内容、学校生活

履修内容としては、まずこの5－6月で授業という形での講義は全て終了し、本格的に修士論文期間に移行しました。5月は丸々テスト期間で、レポートの執筆をしていました。イノベーションの授業では、特にラオスの電力拡充に取り組み、太陽エネルギーを推進しているNGO団体について調べました。ラオスは国の主要産業が電力の輸出入であるにも関わらずいまだに地方では電気が安定して通っていない地域もあります。そのような地域がある中で、小型太陽光パネルの貸し借りなどを通じて地方での電力普及を推進している「Sunlabob」というNGOについて調べました。このような地方の活性化、そして電力格差という問題の解決に向けて取り組んでいる地場イノベーションがどのような政策を通じてより拡充できるかについて調べて考えました。地場産業を支援する基金を作ることや、こういったNGO、政府、国際機関を繋げるような場所を作るなどということが重要になってくると結論付けました。その他の授業では、修士論文のドラフトを作る機会もありました。もちろん、修士論文を書くのは初めてなので学術的な視点での切り口を示すのにはここ5月にもっと苦勞をしたところです。特に研究哲学というところでは、この研究がどのような学術的な哲学によって構成されるのかという項目では、難解な授業や単語も多く、理解と思考に時間を多くの時間を使いました。最終的には理論から世の中を見るのではなく世の中の事象を理論に当てはめてその理論と現実の差異について考察するような流れになりました。ただし、現状ではドラフトなので指導教官とのミーティングを重ねるにつれてよりブラッシュアップしていければと考えております。6月には日系の就活の選考などもあり忙しくなりました。ほとんどの面接などはオンラインで対応してくれましたが、時差の影響などもあり深夜に1－3時に選考が入る機会が多く、日中の生産性を落とさないためにも苦勞をしました。1日の睡眠時間を2分割するなどの工夫をしながらなんとか乗り越えることができました。最終的には日系企業では総合商社の企業から内々定を頂きました。しかし、まだ国連のポジションなど

にも興味を持っているのでこれからも修士論文と並行をしてインターンポジションの応募などにも取り組んでいければと思います。本当に忙しい毎日で、時間が一瞬で過ぎている感覚がありますが毎日を全力で色濃く生きていこうと思っております。

3. ロータリアンとの関わり

5－6月は正直に申し上げますと、ロータリークラブに関連した大きなイベントはありませんでした。その中でも担当のSimon様は私のことを気にかけてくださり度々Whatsappでメッセージをいただいたりしております。そして7月6日にディナーに招待をしていただき、この機会に様々な情報共有をできればと考えております。

4. 重点分野に関して感じたこと、気付いた事、履修内容との接点など

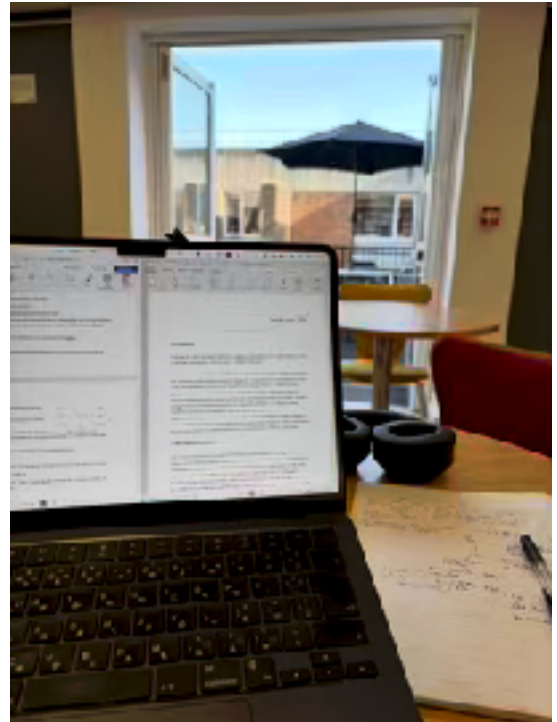
この2ヶ月は主にレポートの内容などを通じてロータリーの重点分野の「地域社会の経済発展」について考える時間が多くありました。まず先述でもある通り、ラオスの地方の経済発展に貢献している小型太陽光パネルのNGOはとても興味深かったです。ドイツ人のエンジニアによってラオスで始められたNGOで、現在では東南アジアの6つの国でインフラ設備が届かない地域での電力拡充に貢献しております。このNGOがなぜ成功できたのかを考えると、現地の人材にしっかりと責任と仕事を与えることができたからだと思います。この団体は、太陽光パネルを村人に貸す代わりに、その貸し借りの運営に関しては現地の村人から構成される電力貸し借り委員会に任せているからです。そこで、支援先の村での機材に対して知識や、小型のビジネスを運営するためのノウハウが溜まり、持続的に成長できる環境が生まれたのです。他には、「開発」とはどのように行われるべきなのかについても学びました。国の開発では一つのメインプレーヤーがいるのではなく、国、民間企業、地方自治体、国際機関などの幾つものプレーヤーが連携することが何より大事だということを学びました。これは他の授業のレポートでも書いたケニアで普及した電子決済システムの「MPESA」という例を通じて学びました。「MPESA」については、まず国が地方までの人々を経済に巻き込むことができるように普及できる電子決済システムの開発を模索していました。そこでケニアの電力大手会社が、自社の資金とノウハウを使ってMPESAを開発しました。開発した後に、地域社会を巻き込めるようなビジネススキームを考案し、地方でMPESAに現金をチャージできるような小型店を出店しました。そこで現地の人たちを巻き込むことができ、雇用の機会が少ない地方で重要な仕事として普及しました。最終的には現金に頼っていた郊外の人たちが携帯電話一つで支払いができたり、アカウント同士での送金ができるようになりました。関連してマイクロローンなども可能になり地方の地域経済の発展に貢献していったのです。このように、テクノロジーxビジネスx貧困問題削減の三つを可能にしたのです。このような世の中で成功している例を通じて自分の将来やりたいことへのアイデアが増えていっているのはとても有意義に感じます。引き続き修士論文でも重点分野に関連したケースや理論について考えていければと思います。

5. その他

今月撮った写真をお送りいたします。



コースの卒業写真の前撮り



期末期間の勉強の日々



コースの仲良しサッカー4人組
左からイギリス人、タイ人、私、インド人



コースでのビーチバレーを企画